

令和3年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる  
「プロジェクト型」の共同研究 研究報告書

令和4年12月26日現在

研究課題名	国境の変動・変容と人びとの意識変容・行動変容 －南方史と北方史の邂逅－				
申請者 (代表者)	氏名		所属機関・職		
	平井 一臣		鹿児島大学法文学部・教授		
研究構成員		氏名	所属機関・職	専門分野	役割分担
	1	平井 一臣	鹿児島大学・教授	政治学	研究総括
	2	兼城 糸絵	鹿児島大学・准教授	文化人類学	琉球列島のな かの奄美群島
	3	町 泰樹	鹿児島工業高等専門 学校・准教授	宗教学	奄美群島と日 本本土
	4	熊 華磊	鹿児島工業高等専門 学校・講師	文化人類学	奄美群島の内 部構造
5	岩下 明裕	北海道大学スラブ・ ユーラシア研究セン ター・教授	国境学	アドバイザー ー	

**研究成果の概要**

本研究は、近現代における「国境」の変動が、「国境」に隣接した地域の人びとにどのような意識と行動の変容をもたらしたのかという問題を、学際的に明らかにすることを目的とする。研究構成員は、これまで奄美群島を中心とした南西諸島域の南方史研究に従事してきたが、アドヴァイザーの岩下教授の助力を得て、北方史研究で得られた知見を吸収し、より広い視野に立って近現代における境界の変動のなかに南方史研究を位置づけなおす作業に着手した。

コロナウイルス感染拡大状況が継続したために、調査研究活動を行ううえで様々な制約があったものの、11月18日～22日の期間に北海道大学附属図書館北方資料室所蔵資料をはじめ、資料調査を実施することができた。本年度、以下のような成果をあげることができた。

①連携セミナー「北方史と南方史の邂逅」の開催（2021年9月2日）

町が「境界領域における国民化の諸相－明治期の与論島における民俗宗教の変容－」と題する報告を行い、また、北方史研究についての報告（菅原慶郎「日露戦前期におけるサハリン島の漁場経営－日本人漁家：岡田八十次家を中心に－」へのコメントを平井が行なった。

②セミナー「国境の変動・変容と人びとの意識変容・行動変容－南方史と北方史の邂逅－」の開催（2022年2月21日）

平井が、報告（「沖永良部出征者が見た朝鮮：大納宮継征露日記（前利潔氏発掘）を手がかりに」）を行い、また、山形大学の天野尚樹・准教授より報告（『引きちぎられた』南の境界：日本と沖縄と奄美のあいだ）していただき、奄美群島の近現代史に対する国境研究からのアプローチについて討論を行なった。

③平井編著『知られざる境界のしま・奄美』を出版し、平井、町、熊、岩下の原稿を掲載した。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

平井一臣編著『知られざる境界のしま・奄美』北海道大学出版会、2021年（謝辞有）

町泰樹「島を出た人びとの話」（平井編『知られざる境界のしま・奄美』所収）（謝辞無）

熊華磊「奄美大島南部の浜をめぐって」（平井編『知られざる境界のしま・奄美』所収）（謝辞無）

当該研究活動をもとに採択された研究プロジェクト（応募中の研究プロジェクトを含む）

基盤研究（C）「70年代日本の越境型社会運動の研究－運動資料を用いた日韓連帯運動の史的再構成－」（研究代表者：平井一臣）

また、沖永良部島出身者の日露戦争参戦日記等を軸にした研究プロジェクトの立ち上げについて検討中である。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。